

平成 30 年 6 月 26 日現在

機関番号：22301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26380512

研究課題名(和文) 中小企業の国際化と地域経済・地域産業への影響に関する実証研究

研究課題名(英文) Research on the internationalization of small and medium-sized enterprises and their impact on local economies and industries in Japan

研究代表者

清水 さゆり (Shimizu, Sayuri)

高崎経済大学・経済学部・教授

研究者番号：70445873

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：中小企業の国際化の実態を把握することと、中小企業の国際化がどのように地域経済および地域産業に影響を及ぼしているかを検討した。  
その結果、経営資源の不足を補完するために、外部組織が提供する中小企業へのサポートを活用したり、海外における信頼できるパートナーとの協調を図るなど、外部資源を柔軟に活用することによって国際化を進めていることが判明した。  
また、海外展開した中小企業の海外子会社の中にはすでにある程度の事業経験を経て、相応の知識や技術等を蓄積した結果、中小企業の本社の活動に対しても影響を与えるようなものもみられた。

研究成果の概要(英文)：We have tried to explore the present situation of the internationalization process of Japanese SMEs (small and medium-sized enterprises), and how their activities affected the performance of local economies and industries in Japan.  
We have found out that in order to complement their shortage of management resources, they have successfully utilized various supports from external organizations in home country, and cooperative as well as reliable partnerships in foreign countries.  
We have also uncovered that to some extent through their business activities, some of their foreign subsidiaries have acquired appropriate knowledge and skills from foreign operations and it in turn affected the activities of their headquarters' activities.

研究分野：国際経営

キーワード：国際経営 国際化 中小企業 外部資源

## 1. 研究開始当初の背景

中小企業の国際化が進展している。本研究課題の主たる対象である中小製造企業の事業分野である工業製品は一般的に、分業システムによって生産される。最終製品を生産する大手アセンブリーメーカーとの間に長期継続的取引関係を構築し、その中で迅速な意思決定と納期、品質、コストの管理を協調的に行ってきた。

しかし、大手アセンブリーメーカーの生産拠点の海外移転とコスト削減を目的とする部品や材料の現地調達進展は、中小製造企業を国内のみならず海外の企業との競争にも直面させることになった。そうした動きの中、部品を加工、供給する中小製造企業の中にも工場を海外に設置するなどの海外展開を図る企業がみられるようになり、中小製造企業の国際化が進展してきた。

既存の企業の国際化に関する研究の多くは、国際化のロジックを解明しようとするものであったり、国際化した後、世界中に拡張した海外子会社をいかにマネジメントするか、本国以外でいかに知識を生み出し、そして活用するかといった課題を解明する等、大企業を分析対象として進められてきた。

他方、中小企業論への従来の経営学的アプローチにも限界があるとする見解もある。また、中小企業と大企業は異質な経営的特性を持っていると考えられている。

そのため、中小企業のマネジメントに焦点を当て、中小企業の国際化およびそのマネジメントの実態を把握することには意義があるものと考えられる。

## 2. 研究の目的

近年進展している中小企業の国際化の実態を把握すること、および中小企業の国際化が地域経済や地域産業にどのような影響を与えているのかを分析することが目的で

ある。大企業の国際化は日本の産業空洞化を誘発するともされるが、中小企業の国際化による本国への影響、それにとまなう地域経済や地域産業への影響も検討するものである。

## 3. 研究の方法

本研究課題は、企業の国際化研究だけでなく、中小企業、戦略論など広範な理論的ベースをもとに研究を進めることになる。そのため、企業の国際化、多国籍企業、中小企業、戦略論など多くの研究分野の先行研究を渉猟し、調査のためのフレームワークの構築をはかる。

また、中小企業の国際化の実態を把握するためには、国際化の経緯や経営者の意図等に深く迫る必要がある。本研究課題のアプローチとしては、聞き取り調査が適切であると考えられる。そのため、国内外の中小企業や中小企業の国際化をサポートする外部組織、中小企業のパートナー企業等に対する聞き取り調査を中心に行う方法をとる。

## 4. 研究成果

中小企業の国際化の実態を把握することと、中小企業の国際化がどのように地域経済および地域産業に影響を及ぼしているかを検討した。その結果、以下のようなことが明らかになった。

大手アセンブリーメーカーの海外展開に対応して、中小製造企業の国際化が進展しているものの、国内に立地し活路を見いだす中小製造企業も存在している。

これらの中小製造企業は、長い年月の間に培った技能や技術の進歩をはかり、独自の技術を生み出している。そして、独自技術を基にして先進的で高度なニーズ、あるいは高い所得水準のもとで生まれるニーズに対応することで、独自のポジションを築

き、それによって企業としての存続と成長を企図している。

他方、積極的な国際化を進めている中小製造企業も存在する。しかし、多くの中小企業は経営資源の制約に直面しており、国際化するための資金や、人材、知識やノウハウなどを十分には保有していない。

こうした経営資源の不足を補完するために、外部組織が提供する中小企業へのサポートを活用したり、海外における信頼できるパートナーとの協調を図るなど、外部資源を柔軟に活用することによって国際化を進めている。たとえば、タイにある中小製造企業を対象とした工場アパートでは、同アパートに入居する中小製造企業に対して、BOI（タイ投資委員会への申請）、法人登記等進出のための書類作成、会計、法務、物流、人材確保などさまざまなサポートが提供されている。

また、海外展開した中小企業の海外子会社の中にはすでにある程度の事業経験を経て、相応の知識や技術等を蓄積した結果、現地で新たな技術を獲得して、新たな販路を開拓したり、中小企業の本社の活動に対しても影響を与えるようなものも存在する。そうした海外子会社は、たとえば、ある製品の生産だけでなく、設計までも海外子会社で行うようになり、日本拠点との分業に展開している企業も存在する。また、受入国のみならず、周辺国にまで積極的に販路を開拓したり、日本では行っていない工程を行えるようになったりすることで、自立的に利益を獲得することができるようになるだけでなく、企業全体としての利益の確保に寄与しているものもある。

すなわち、以下の点について明らかにすることができた。

国際化する中小企業は、経営資源の不足を補完するために、外部組織が提供する中小企業へのサポートを活用したり、海外に

おける信頼できるパートナーとの協調を図るなど、外部資源を柔軟に活用することによって国際化を進めていることが判明した。

また、海外展開した中小企業の海外子会社の中にはすでにある程度の事業経験を経て、相応の知識や技術等を蓄積した結果、中小企業の本社の活動に対しても影響を与えるようなものもみられた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

清水さゆり (2017) 「中小企業の海外展開に関する考察—経営資源の制約と外部資源の活用—」『戦略研究 20』

[学会発表] (計2件)

清水さゆり・里見泰啓 (2014) 「中小石けん・洗剤メーカーの事業継続の要因について—エスケー石鹸の事例分析—」ビューティビジネス学会第3回全国大会

清水さゆり (2017) 「中小製造企業の国際化と経営者の戦略的意図」戦略研究学会第15回大会

[図書] (計2件)

清水さゆり・里見泰啓 (2016) 「グローバル化に対する中小企業の事業展開と地域の対応」『自由貿易下における農業・農村の再生』日本経済評論社

清水さゆり (2018) 「新興国企業の成長とグローバル化—タイ・ビバレッジ社」『理論とケースで学ぶ国際ビジネス 第4版』同文館出版

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

清水さゆり (Shimizu Sayuri)

高崎経済大学・経済学部・教授

研究者番号：70445873